

## 指標と財務計画

### KPI

中期経営計画期間中に達成すべき主要業績指標として、「事業全体の成果を示すお客さま満足度の向上」「高速道路やサービスエリア・パーキングエリアの各事業にかかる安全・安心・快適・便利の向上」「社員のワークスタイルの向上」に関する観点から、5つの主要業績を設定しています。

#### 【主要業績指標 (Key Performance Indicator)】

番号	項目	実績		目標
		2021年度	2022年度	2025年度
1	総合顧客満足	3.7ポイント	3.7ポイント	3.7ポイント/5.0(総合CS)
2	本線渋滞損失時間 <sup>※1</sup>	590万台・時間	788万台・時間	770万台・時間
3	快適走行路面率	95%	95%	95%
4	売上高営業利益率 <sup>※2</sup>	▲7.9%	7.5%	5.8%
5	年間総実労働時間	1,972時間	1,960時間	1,950時間

※1 高速道路本線で渋滞が発生することにより、お客さまが高速道路を走行する際に通常より余分にかかる時間の総和のこと(暦年値)

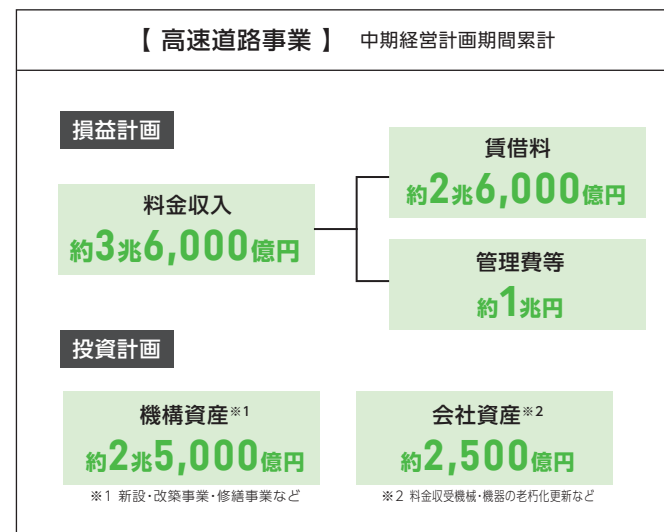
※2 SA・PA事業の連結

### 高速道路事業の損益・投資計画

損益については、高速道路機構との協定に基づき、お客さまからいただく料金収入から、高速道路機構が保有する債務の返済に充てる賃借料の支払いおよび必要な高速道路管理を着実にを行います。

機構資産の投資については、高速道路機構との協定に基づき、東京外環道(大泉JCT~中央JCT)、横浜環状南線(釜利谷JCT~戸塚)、常磐道4車線化事業などの新設・改築事業および高速道路リニューアルプロジェクトなどの修繕事業を計画しています。

会社資産の投資については、料金収受機械、ETC設備の整備、老朽化更新などを計画しています。



### 関連事業の損益・投資計画

損益については、経営資源の最適な活用により、お客さまサービスと企業価値を向上させるとともに、更なる効率化により収益力の強化を図ります。

投資については、商業施設の新設・増改築・老朽化更新やシステムに関するリプレースなどを計画しています。



## 財務基盤の強化

お客さまからいただく通行料金収入を高速道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに、高速道路機構への賃借料の支払いに充てています。

一方で、高速道路の建設・更新事業に必要な資金は、社債の発行や金融機関からの借り入れなどによって調達しています。

### 連結財務諸表(過去5年)

#### ◆ 連結貸借対照表

資産の部は、高速道路機構へ引き渡す前の道路資産である仕掛道路資産が多くを占め、負債の部は道路資産の建設のために調達した道路建設関係社債・長期借入金が多くを占めています。

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<b>資産の部</b>					
流動資産	9,303	9,498	10,073	11,805	13,775
現金及び預金	1,180	965	1,090	996	1,071
仕掛道路資産	5,395	6,081	6,212	7,609	9,066
その他の流動資産	2,726	2,451	2,770	3,199	3,637
固定資産	3,163	3,369	3,461	3,538	3,656
有形固定資産	2,578	2,712	2,798	2,808	2,789
無形固定資産	149	188	223	277	322
投資その他の資産	435	468	438	452	544
繰延資産	7	11	14	18	18
<b>資産合計</b>	<b>12,474</b>	<b>12,879</b>	<b>13,550</b>	<b>15,362</b>	<b>17,450</b>
<b>負債の部</b>					
流動負債	3,472	2,614	2,395	2,610	3,299
固定負債	6,694	7,859	8,811	10,397	11,749
道路建設関係社債・長期借入金	5,669	6,806	7,309	9,014	10,365
その他の固定負債	1,024	1,053	1,502	1,383	1,384
<b>負債合計</b>	<b>10,166</b>	<b>10,473</b>	<b>11,207</b>	<b>13,007</b>	<b>15,048</b>
<b>純資産の部</b>					
株主資本	2,442	2,542	2,444	2,427	2,501
資本金	525	525	525	525	525
資本剰余金	587	587	587	587	587
利益剰余金	1,329	1,429	1,331	1,314	1,388
その他の包括利益累計額	△134	△136	△101	△72	△99
<b>純資産合計</b>	<b>2,308</b>	<b>2,405</b>	<b>2,343</b>	<b>2,354</b>	<b>2,401</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>12,474</b>	<b>12,879</b>	<b>13,550</b>	<b>15,362</b>	<b>17,450</b>

(億円単位未満端数切り捨てのため、表上の計算は合わない場合があります。)

## ◆ 連結損益計算書

営業収益の内訳は、高速道路事業における料金収入や高速道路の新規開通等に伴う道路資産完成高、関連事業の売上高であり、料金収入が多くを占め、営業費用の内訳は、高速道路事業における道路資産賃借料や管理費用等であり、高速道路機構との協定に基づく道路資産賃借料が多くを占めます。なお、道路資産完成原価については、営業収益の道路資産完成高と同額を計上しています。

2022年度の営業損失は、51億円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は73億円となりました。

科目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<b>営業収益</b>	<b>19,431</b>	<b>12,643</b>	<b>11,946</b>	<b>10,303</b>	<b>11,086</b>
<b>高速道路事業</b>	<b>18,659</b>	<b>11,817</b>	<b>11,281</b>	<b>9,838</b>	<b>10,495</b>
料金収入	8,599	8,574	7,143	7,416	7,917
道路資産完成高	9,985	3,160	4,058	2,348	2,504
その他の営業収益	74	82	79	73	74
<b>関連事業</b>	<b>838</b>	<b>891</b>	<b>742</b>	<b>555</b>	<b>672</b>
SA・PA事業	416	406	243	248	311
受託・その他の事業	422	484	498	307	360
セグメント間取引の消去	△ 66	△ 65	△ 77	△ 90	△ 81
<b>営業費用</b>	<b>19,386</b>	<b>12,542</b>	<b>12,005</b>	<b>10,351</b>	<b>11,137</b>
<b>高速道路事業</b>	<b>18,649</b>	<b>11,741</b>	<b>11,300</b>	<b>9,871</b>	<b>10,572</b>
道路資産賃借料	6,211	6,118	4,809	5,168	5,579
道路資産完成原価	9,985	3,160	4,058	2,348	2,504
管理費用等	2,451	2,462	2,432	※ 2,355	※ 2,488
<b>関連事業</b>	<b>805</b>	<b>867</b>	<b>783</b>	<b>570</b>	<b>647</b>
SA・PA事業	385	384	291	267	288
受託・その他の事業	419	482	492	302	359
セグメント間取引の消去	△ 67	△ 65	△ 77	△ 90	△ 82
<b>営業利益（△損失）</b>	<b>44</b>	<b>100</b>	<b>△ 59</b>	<b>△ 47</b>	<b>△ 51</b>
<b>高速道路事業</b>	<b>10</b>	<b>76</b>	<b>△ 18</b>	<b>※ △ 33</b>	<b>※ △ 76</b>
<b>関連事業</b>	<b>32</b>	<b>23</b>	<b>△ 41</b>	<b>△ 14</b>	<b>25</b>
<b>経常利益（△損失）</b>	<b>75</b>	<b>137</b>	<b>△ 25</b>	<b>△ 12</b>	<b>△ 17</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益（△損失）</b>	<b>41</b>	<b>99</b>	<b>△ 97</b>	<b>※ △ 14</b>	<b>※ 73</b>

(億円単位未満端数切り捨てのため、表上の計算は合わない場合があります。)

※ 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)のうち、ロックンブ橋脚の橋梁に対する耐震対策事業を重点的に進めています。当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しており、営業収益には計上されない一方、管理費用等には70億円含まれています。この事業を除いた、2022年度の高速道路事業の営業利益は5億円、当期純利益は3億円となります。

(注) 当社グループの事業区分およびその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

## 確実な資金調達で社会的課題の解決へ

### ソーシャル・ファイナンスによるSDGsへの貢献

当社は、ICMA(国際資本市場協会)が定めるソーシャルボンド原則に基づくソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定し、2019年6月にR&I(格付投資情報センター)から第三者評価を取得しています。ソーシャル・ファイナンスにより調達した資金は、高速道路の建設・更新事業を通じて、地域活性化・災害対策・交通安全の確保・環境保全の推進など、社会的課題の解決に役立てています。

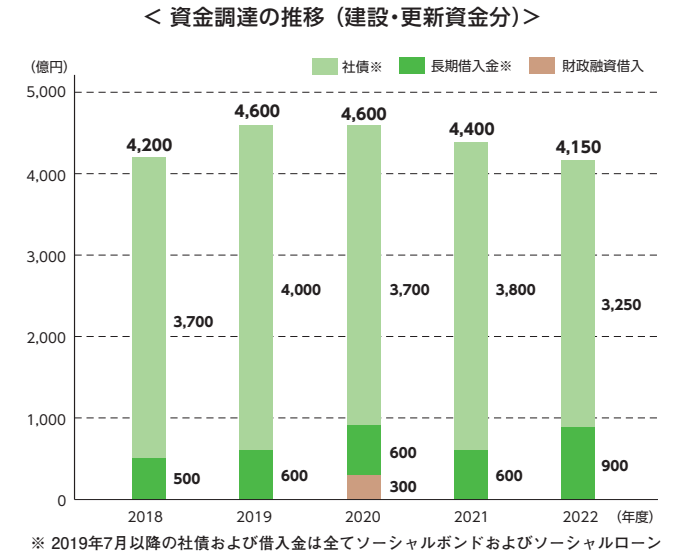
2022年度は、自治体向けのセミナーなどへ参加し、事業を通じた社会的課題の解決について紹介するとともに、投資家の皆さまとの意見交換を実施しました。また、資金の充当状況などをまとめたインパクトレポートを新たに作成し、プロジェクトの透明性を高める取組みなども行いました。

今後も各種IR活動を通じて、投資家の皆さまとの対話を推進していきます。

「ソーシャル・ファイナンス」の詳細はこちら  
<https://www.e-nexco.co.jp/ir/socialfinance/>



「インパクトレポート」の開覧はこちら  
[https://www.e-nexco.co.jp/assets/pdf/ir/impact\\_report/impact\\_report\\_2303.pdf](https://www.e-nexco.co.jp/assets/pdf/ir/impact_report/impact_report_2303.pdf)



● ソーシャル・ファイナンスとは……社会的課題を解決する事業に充当することを目的とした資金調達手段。当社では、高速道路の建設・更新事業に必要な資金について、ソーシャルボンド(社債)およびソーシャルローン(借入金)として調達し360件を超える投資家・金融機関の皆さまから投資・融資をご表明いただいています。

### 高い信用格付けの取得

R&I、Moody's(ムーディーズ・ジャパン)、JCR(日本格付研究所)から格付けを取得しており、投資家の皆さまの客観的な投資判断に資するよう努めています。

なお、これらの格付け機関からは、いずれも日本国債と同等の格付けが付与されています。

#### NEXCO東日本の信用格付け

R&I(発行体格付け)	AA+
Moody's(発行体格付け)	A1
JCR(長期発行体格付け)	AAA

### 投資家とのコミュニケーション

SDGsをテーマとしたウェブセミナーの開催



沿道企業や自治体との関わりをテーマとしたパネルディスカッションの実施

## 主なプロジェクトの実績

当社の事業資金は、「地方圏の産業・観光投資を誘発する都市・地域づくりの推進」「切迫する巨大地震・津波や頻発化・激甚化する気象災害に対するリスクの軽減」「インフラの老朽化対策」「交通安全の確保」「環境保全への取り組み」などの社会的課題の解決に役立てており、2022年度のおもなプロジェクトの実績は、下表のとおりです。

区分	主なプロジェクト	指標	2022年度実績
新設・改築	4車線化整備による 高速道路機能強化 (渋滞緩和のための車線増設は含まず)	4車線化完了延長	約20.5km
	渋滞緩和のための車線増設	付加車線完成箇所	2カ所
特定更新	高速道路 リニューアルプロジェクト	完成高	312億円
維持・修繕	逆走防止対策	逆走防止の 取組み実績	LED発光体付 ラバーボールウィングサイン、 プレッシャーウォールの設置
	暫定2車線区間の 正面衝突事故防止	ワイヤロープ 設置延長	約122.7km (累計約475km)
	省エネによるCO <sub>2</sub> 削減	トンネル内照明の LED化	62カ所(累計351カ所)
	事業に伴うエネルギー・物質の リサイクル	建設発生土 リサイクル率	約96%



4車線化の整備



リニューアルプロジェクトの推進



ワイヤロープの整備



付加車線の整備